

お天気解説

アキラのズバッと

温暖化による影響シリーズ
「温暖化と雪」その1

温暖化で雪はどうなるのか？

令和5年12月1日
江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

いよいよ師走に入りました。寒くなってきましたね。関東北部からはもう初雪の便りが聞かれました。今年を振り返ると、3月は各地で高温の新記録が発表され、連日真夏日だった7～8月。世界中高温だったので国連のグテーレス議長は「地球沸騰化」という言葉で表現しました。9月も記録的残暑が続きました・・・でも、11月8日の立冬を過ぎてからは季節が順調に進んでいるように思えます。



ちがう風向の風がぶつかる
雲が発達して大雪になる

JPCZ（赤丸の部分）と風の向き（白い矢印） 2018年1月11日21時
高知大学気象頁より一部を加工

さて、温暖化シリーズの今回は「温暖化と雪」です。強い寒気がシベリアから南下してくると日本海上昇気流が発生し雲ができます。この雲は寒気と日本海の海面水温との差が大きいと、上昇気流が活発化してさらに発達します。また、日本海で風向のちがう風どうしがぶつかる部分に長い雲列（JPCZ（日本海寒帯気団収束帯）といいます）ができ、よく日本海側に大雪を降らせて局所的に豪雪になることがあります（図参照）。

日本海は、この夏の暑さの影響で海面水温が上昇しています。この冬は暖冬予想ですが、強い寒気が南下した場合、日本海側に大雪が降る恐れがあります。

では、江戸川区など東京地方の雪についてはどうでしょうか。関東南部の雪は主に伊豆諸島近海を北東に進む低気圧（南岸低気圧）によります。東京都心で雪が降るときは、内陸から南岸低気圧に向かって吹く冷たい北寄りの風となります。銚子市など千葉県沿岸では太平洋

から暖かな風が吹くので、雪は東京よりも少ないです。でも暖冬の年は冬型の気圧配置が崩れやすく、寒気が強いときに関東南部でも大雪を降らすことがあります。近年では、東京都心で積雪27cm（2014年2月8日）、23cm（2018年1月22日）といった記録がありました。温暖化の進んだ昨今でもこうした大雪の降ることがあるのです。

2023年12月01日11時 気象庁 発表				
日付	今日 01日(金)	明日 02日(土)	明後日 03日(日)	
東京地方	曇時々晴	晴時々曇	晴時々曇	
降水確率(%)	-/-/10/10	0/0/10/10	10	
信頼度	-	-	-	
東京 気温 (°C)	最高	12	13	15 (13~17)
	最低	-	4	5 (3~6)

東京地方の週間天気予報より
気象庁HPから抜粋
(週末は晴れそうですね。)

次回は、その2「東京の積雪記録」について触れてみます。